



宮 晶子 研究室  
Akiko Miya Lab.

Profile

1986 日本女子大学家政学部住居学科 卒業  
1986-1991 レーモンド設計事務所  
1991-1997 アルテック建築研究所  
1997 STUDIO 2A 設立  
2000-2011 横浜国立大学・東海大学・日本女子大学  
神奈川大学・東京理科大学・芝浦工業大  
学にて非常勤講師  
2012- 日本女子大学家政学部住居学科准教授  
2018 miya akiko architecture atelier に 改

Works

1999 「那須の山荘」 (栃木県マロコ建築奨励賞)  
2004 「kogata seminer house」 (SD review 2004 入賞)  
2010 「house I」 (新建築賞)  
2011 「house K」 (JIA 新人賞)  
2013 「黄金町の高架下 Site-B」 (神奈川県建築コンクール優秀賞)  
2014 「食堂の壁」 (グッドデザイン賞)  
2017 「食堂の壁のはなれ、屋根と窓のある家」  
(木質空間デザインコンテスト 最優秀賞)  
2018 「FUJI PUBLIC」 (SD review 2018 入選)

「見えるもの、見えないもの」

建築物から小さなオブジェクト、都市に至るまで「もの」という人工物のあり方について考え、目には見えない人の情緒や人々の活動に寄り添い、響きあうものとなっていくにはどうしたらよいか実際の設計や作品を通して、探求しています



かたちが語るとき展

2020~21年にフランスのオルレアン (FRAC centre) からパリ (日本文化会館) へと巡回した「かたちが語るとき」展の関連企画展が、2021~22年にかけて神戸 (兵庫県立美術館) と横浜 (BankART Station) にて開催されました。建築史家の五十嵐太郎氏キュレーションのもと、日本の建築シーンを牽引する1960年以降生まれの建築家35組が、「かたち」とは、という問いかけに答え、プロジェクトを紹介する展覧会です。宮先生は「食堂の壁のはなれ、屋根と窓のある家」を出展しました。フランス展に出展した「食堂」から眺められるこの「家」は、見る人に「認識の主観」を働きかけていきます。展覧会に向けてM1も展示方法から深くたずさわり、模型制作を行いました。その中の一つであるシャドーボックスは、心理学科の先生のアドバイスのもと、現地で行った心理的な実験からつくられました。対象化して見ることの多い建築模型を、いかに体験的に「見えた」という瞬間をつくり出すか。宮先生と何度もスタディーを重ねて新たな模型表現を模索していきました。(模型写真: 緋田昌重) (江崎 有咲)



寄居駅前拠点施設設計業務公募型プロポーザル

埼玉県の寄居駅前を対象とした拠点施設のプロポーザルに参加しました。約400㎡の敷地に、観光案内所や農産物・特産品の売り場、休憩スペースを持つ地域交流施設を計画しました。建築を支える「Y型の壁柱」によって、シンプルで開放的な大空間にゆるやかな領域性を作り出し、町で暮らす人・観光で訪れた人・移住を考える人に多様な活動と一人一人の居場所をつくりだします。駅と敷地前の公園を繋ぐような視線が抜けた空間は、活動を外へとひらき、どこから見ても寄居町の顔となるような、にぎわい溢れる町のよりどころを提案しました。本プロジェクトでは、模型を1:20のスケールでシーンを想像しながら作り込み、模型制作、写真撮影やプレゼンなど、人に伝えるための、より洗練された表現を追求しました。

(伊藤 万由子)



「もの」の研究

建築をとりまく「もの」。建築それ自体が「もの」であり、「もの」を受容する器でもあるといえます。しかしなぜ建築雑誌をめくってみると、そこには「もの」が排斥された純粋でからっぽの空間がうつしだされ、まるで「もの」に囲まれて生きている今の生活を拒否しているかのようです。人が暮らす中で欠かせない「もの」との付き合い方は、現在の建築のあり方をも変容させる重要なテーマなのではないでしょうか。わたしたちそれぞれの考える「もの」のイメージの共有をはじめ、過去の建築雑誌をさかのぼり建築写真やコンセプト文からみえる「もの」の振る舞いの観察など、「もの」という人工物のあり方について考えていきました。またガストン＝バシュラール著『空間の詩学』の輪読や八戸美術館などの建築見学を通し、現在も「もの」の研究を継続しています。

(小野 杏花)

主な卒業制作・修士制作

卒業制作: 「壁に寄り添う家族〜匿名性と顕名性を行き交うシェアハウス〜」 加藤ひかる 2012年度 JIA東京都学生卒業設計コンクール2012 今川賞・第36回レモン賞入江正之賞  
「初音こども園〜都市で育つ子供のための建築〜」 小黒日香里 2016年度 せんだいデザインリーグ2016 日本一・赤レンガ卒業設計展2016最優秀賞  
「2次元・3次元空間の交錯」 塩田佳織 2018年度 JIA東京都学生卒業設計コンクール2019 銅賞・近代建築6月号別冊卒業制作2018掲載  
修士制作: 「重層し、うつしあう空間 雰囲気観察から見てきたもの」 加藤真璃子 第19回JIA大学院修士設計展2021出展・第19回林雅子賞選定会 恵谷選定委員特別賞  
「今」を訪く建築-日本文化に根付く時間思想から、循環し流動し続ける設計手法を見出す-」 石川紗也佳 第44回レモン展出展・第19回林雅子賞選定会 柴田選定委員特別賞

研究室の雰囲気を表す一言: じっくり建築について語り合える、探求と邁進の研究室

宮晶子研究室

宮研究室の活動は個人の興味を掘り下げることから始まります。3年次は読書ゼミを通して建築や自身の興味の源泉に迫り、4年次には1年間じっくりとディスカッションを重ねていくことで、一見建築とは無関係とも思えるような個人的な視点を他者と共有可能な建築というかたちにまで昇華させていきます。自身の世界観をみつめ、じっくりと建築について語り合える環境は、自分の価値観を踏み固める時間となるのではないのでしょうか。また、ゼミメンバーだけでなく先生や先輩との距離が近く、上級生が他学年のゼミに参加するタテのつながりがあることから、学年を問わず交流できるひらかれた雰囲気の研究室です。

(小野 杏花)



2021年度の卒業制作・修士制作



建築を着る  
-銀座のウラとオモテを縫うまち宿-  
伊東 知夏 (卒制)



吊いの数  
-現代都市における「野生の感覚」を呼び覚ます立体公園墓地-  
大野 蓮 (卒制)



今ここ感の創出  
-「他者と他者の不在」との遭遇-  
小口 真由 (卒制)



SCALE TRANSER  
-建築的想像と創造の世界を拡張するゲーム体験-  
兼高 彩乃 (卒制)



大人と子どもの“見える”について  
-創造的主体のための図書館-  
亀田 鈴香 (卒制)



空のもとで生きる  
-新しい都市のかたち-  
月ヶ瀬 かれん (卒制)



建築と物が語りだすとき  
-容器と内容物という機能的な役割から解放される住宅-  
長島 夏希 (卒制)



「歩く」ことで溶かす都市の境界  
-都市の活気を再起する千駄ヶ谷駅周辺の改編-  
松山 美央 (卒制)



感傷主義的建築  
-普段は想いを馳せない自分の感情や記憶との邂逅を果たす空間-  
山口 早紀子 (卒制)



生きられる建築  
相互作用による意味の変容  
伊東 由莉 (修制)



まちに住む  
道が介する人と家  
小原 佳奈 (修制)



空間構成による経験と想起  
ぼーっとできる建築  
森 菜央 (修制)